



論説副委員長

沢辺隆雄

「学び直し」の秘められた効果

「学び直し」が教育のキーワードになっている。千葉県十九里浜に近い私立横芝敬愛高校（白鳥秀幸校長）でその授業を見学する機会があった。

高校生は小、中学校時代の学習でつまずき、授業に不安を持って入学してくる生徒が少なくない。義務教育段階までさかのぼって学び直す機会を持ち、弱点を克服していくことで学ぶ楽しさを知り、意欲がわくなど教育効果は大きい。

高校の学習指導要領などでも学び直しの大切さは指摘されてきたが、生徒に地道に復習に取り組ませるのは簡単ではない。

同校の学び直しの授業は「マルチベーション」と名付けられ、国語、数学、英語は週1時間、理科と社会は隔週1時間ある。

各時間に使う教材はA5判のプリント裏表3枚で、小テスト方式で解答する。内容も分量も実によく工夫され、高校時代は遠い過去の身もやってみたくなる問題が並ぶ。複数教員によるチームティーチングで生徒の解答状況を見て回り、学習内容と達成度が一目で分かる自己診断表にスタンプを押ししていく。

数学では入学当初は、かけ算の九九の表を埋めるほか、簡単な計算問題から始まる。大学でも九九ができない学生がいるといわれ久しいが、つまずいたまま高校に進むのは小中の教員の責任でもある。

などと偉そうなお話はいえない。□□×□□=115（□に入るのは0～9）といった問題など、恥ずかしながら分からなかった。

国語では学校名や名前、川端康成といった文学者の名などを漢字やひらがなで、お手本にそって書く練習もある。生徒の解答欄をのぞくと、きちんと美しい字を書く生徒が少なくない。

白鳥校長は平成16年から19年に千葉県立姉崎高校の校長を務め、当時「荒れた学校」だった同校を立て直したことで知られる。同校で教員と協力しこの学び直しの授業を開発、実施し、中退者ゼロなどを実現した。

白鳥校長は、県立幕張総合高校校長や市原市教育長などを経て、4年前に横芝敬愛高校校長に就いた。横芝敬愛でも学び直しの授業を導入し、これを知って同校を志望し、小学校教員を目指す生徒もいる。

白鳥校長は「学び直しを通して、生徒は落ち着いて授業に臨むなど教室の雰囲気が変わる」と言い、増え続ける不登校問題などの解消にも「学ぶ喜びを体得する」重要性をあげる。